

いつまでも健やかに・・・ 私たちの願いです。

医療法人玉昌会 加治木温泉病院

発行 平成24年4月1日

広報誌 第25号

すこやかか加温



体調にお変わりございませんか？

目次

巻頭言（院長 山下 正策 ）	2
病院見学	3
新入職員の紹介	4～7
イベント・行事	8～13
メンタルヘルス通信（心理相談室）	14～17
頭痛について（薬局）	18
地域包括ケアシステム（連携センター）	19
COPDとは（リハセンター）	20
肩こり対策（栄養室）	21
セカンドオピニオンにつきまして	22
個人情報保護方針	23
氷山の一角・編集後記	24

医療法人 玉昌会 行動指針

低 賞 感 微

低：全てに謙虚な気持ちで接する
賞：お互いを思いやり敬意を払う
感：全てに感謝する
微：微笑みを添えて態度で示す

東日本大震災から1年が立ちました。1万9千人近い犠牲者とさらに被害総額は約25兆円にも及ぶとも言われています。現在もがれきの処理もなかなか進まず、また日本各地にたくさんの人々が避難されており復興にはまだ時間がかかりそうです。特に原発による放射能汚染は情報公開も十分でなく、今後の住民の健康や土地利用への影響が心配です。電気の供給や景気への影響も大きく私たちの生活も見直しを迫られています。

現在社会保障・税一体改革が進められており、今後の年金・医療・介護や消費税増税などが検討されています。財政状況や景気が厳しい中で、高齢の単身・夫婦世帯の増加や2025年には団塊の世代が75才を超え、医療や介護の必要な方が現在の450万人から750万人に増えるといわれています。また1年間に亡くなる方も100万人から160万人になると予想され、今後は病院だけでなく施設や自宅での看取りも必要になると思われます。このような状況の中で今年は6年に1度の医療・介護保険診療報酬の同時改定が行われました。今回の改定では私どものような亜急性期から慢性期を担う病院では急性期病院の後方病院としての診療や外来や施設などからの患者の治療や入院を積極的に引き受け、入院当初から退院支援を行い在宅へ繋げていくことが求められています。在院日数の制限も検討されており、長期の入院が今後難しくなりそうです。これからは今まで以上に他の医療機関や福祉施設や介護事業所との連携が必要と考えています。当院では病棟機能の見直しや数年前から在宅サービス事業部の充実を図り、地域医療連携センターを中心に退院支援や在宅での生活支援に取り組んでいます。今後さらに住み慣れた地域で出来るだけ長く生活が続けられるように支援する地域包括ケアシステム（地域ケアネットワーク）の構築にも取り組み、地域に密着した医療・介護を行っていきたいと考えています。

昨年の12月に病院機能評価の更新のための審査を受けました。1年以上前から職員みんなで医療・介護の質や医療安全・感染対策や療養環境の改善などに取り組んできました。お蔭様で4月9日に更新認定の知らせが届きました。新しい職員も入りましたので、これからも引き続き業務の改善に取り組み、今まで以上に安心して治療や介護が受けられる病院や在宅サービス事業部にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

加治木温泉病院

理念

基本方針

《理念》

法人の行動指針である(低賞感微)に沿った医療・サービスを提供して地域に貢献します。

《基本方針》

1. 患者様の尊厳と権利を尊重した医療・介護を目指します。
2. 患者様の視点に立ち、良質で安全・安心な医療・介護の提供に努めます。
3. 地域での亜急性期から慢性期を担う病院として医療・福祉施設との連携と在宅部門の充実を図り、入院から在宅への一貫した医療・介護サービスの提供を目指します。
4. 健全な病院および在宅事業部の運営を行い、安心で働き甲斐のある職場作りを目指します。
5. 健診や保健指導による健康管理・病気予防や介護予防に取り組みます。

病院見学

平成24年3月27日、慶應義塾大学・医療政策・管理学教室の吉村公雄専任講師、野崎昭子助教、Andrew Kissaneさんが、首都圏外の病院における臨床の実情を見学されたいとの事、来院されました。「院内の明るい雰囲気や隅々まで行き届いた清掃、クリニカルインディケーターの導入及び新たな抑制方法の開発等の取り組みに非常に感銘を受けました。」とのご感想を頂きました。このお言葉を励みに、職員一同、これからも頑張って参りたいと思います。



患者さまの権利宣言

すべての人は、人格を尊重され健康に生きる権利を有しています。患者様におかれましては、健康を回復し、維持増進するために、医療スタッフの助言協力を得て、患者様の選択のもとに、最善の医療を受ける事は人として基本的権利です。

【平等で良質な医療を受ける権利】

患者様は本人の経済的社会的地位、年齢、性別、疾患の種類などにかかわらず平等で良質な医療を受ける権利があります。

【選択の自由の権利】

患者様は担当医師および医療機関を選択し、または変更する権利があります。またいかなる時でも他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。

【知る権利】

患者様は、自らの状況（病名、病状、検査結果）について納得するまで十分に説明を受ける権利があります。

【自己決定権】

患者様は納得できるまで説明を受けたのち、医療スタッフの提案する医療行為を自分で選択する、同意して受ける、あるいは拒否する権利があります。

【個人情報の保護】

患者様は、全ての個人情報、プライバシーが守られる権利があります。

定期講演会「未来社会をあなたと共に」

～地域リハビリテーション研修会共催～

平成24年1月21日(土)、始良市文化会館加音ホールにて、「平成23年度始良高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション研修会」が開催されました。今回は社会福祉法人東翔会 グループホーム ふぁみりえ ホーム長 大谷るみ子先生をお迎えして、認知症の人の理解と地域ケアについて講演して頂きました。認知症の人達の理解が深まり、地域全体で支える仕組みをつくり、認知症になっても、誰もが住み慣れた家や地域で、安心して豊かに暮らし続けることのできる町づくりに関するご講話に、参加者一同、興味深く聞き入っている様子でした。
(参加者:200名)



加治木駅伝競走大会

平成24年1月28日開催 第45回加治木駅伝競走大会に加治木温泉病院チームが参加！

朝方まで降り続いた雨も大会開催前には上がり、11時に男子チーム38組がスタート。

沿道の声援を受けながら、例年参加の加治木温泉病院チームもたすきを繋ぎ、タイム1時間12分59秒後で無事ゴールインしました。今回の当院チームは、選手の確保が難しく、向江監督(通所リハ)を直前まで悩ませていましたが、例年参加の山下院長をはじめ、多くの方の参加もあり、若手が少ないながらも男子クラス38チーム中17位と好成績を納めることができました。ご声援ありがとうございました。

1区:新 慶介(加治木温泉病院・ケアワーカー)

2区:黒江 誠一(同・ケアワーカー)

3区:竹下 浩介(同・作業療法士)

4区:山下 正策(同・院長)

5区:豊田 勝也(株式会社JOYY職員)

6区:吉永 浩之(加治木温泉病院・統括部長)

7区:野添 裕継(同・情報管理室長)

監督:向江 貢(同・看護師)



院内研究発表会

平成24年3月3日(土)、当院1階食堂談話室にて、第15回院内研究発表会が開催されました。各部署ごとの様々な取り組みに、質疑応答も多く、大変有意義な時間となりました。

(参加者:242名)



新入職者のつどい

平成24年4月7日(土)始良市文化会館加音ホールにて、第23回2011年度入職者・2012年度新入職者のつどいが開催されました。当日は、高田昌実理事長先生の挨拶に続き、鹿児島大学医学部・歯学部付属病院より、消化器内科診療准教授の宇都浩文先生をお迎えし、『肝炎あれこれ』の記念講演をいただきました。イラストを交えたわかりやすい内容で職員の理解を深める良い機会だったと思います。新入職員を代表して、高田病院看護師 今村久美子さんより「人の命を尊ぶ心と医療を提供する者の責任の重さを感じさらに微力ながらも玉昌会の一員として社会に貢献できることに喜びを感じております。また、行動指針である“低・賞・感・微”を念頭に置き行動し、患者様、利用者様にとってより良いサービスを提供できるよう自分の責務を心をこめて果たす事ができるよう日々努めていく所存でございます」との誓いの言葉もあり、新入社員一同、気を引き締め頑張っていく事と思います。

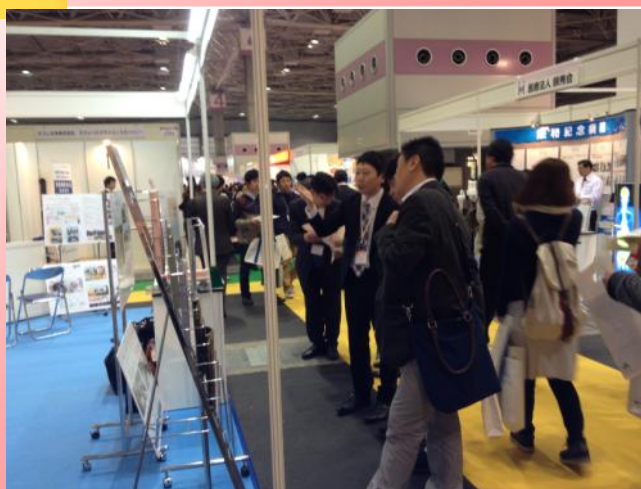
(参加者:221名)



慢性期医療展2012

平成24年4月19日(木)から21日(土)までの3日間、大阪市のインテックス大阪にて、高齢化社会を支える慢性期医療の専門展「慢性期医療展2012」が開催され、加治木温泉病院は、今年初出展しました。鹿児島地区・始良地区共に、病院及び住宅施設の展示、病院紹介のDVDの放映、「おはな」・「ほりえ」・「おはな別館」の紹介ビデオの放映、交通アクセス・料金概要のパネル展示等を行い、関西地区にお住まいの鹿児島県出身者方を中心に、数多くの方々に足を運んで頂きました。鹿児島県出身者の方にとっては、故郷の懐かしさを感じ取って頂き、また、他県出身者の方にも興味深く見て頂けた事と思います。加治木温泉病院を、多くの方々に知って頂ける良い機会となりました。





出展企業:医療法人玉昌会・医療法人錦秀会・医療法人康生会・医療法人松徳会松谷病院・他48企業

参加者:4月19日(木)	1117名
4月20日(金)	1008名
4月21日(土)	1385名
合計	3510名

ストレスとソーシャルサポート

☆ソーシャル・サポートって何？

ソーシャル・サポートとは、「人がある情報を受け取ることによって、自分が世話を受け、愛され、価値あるものと評価され、コミュニケーションと相互の責任のネットワークの一員であると感じることができるような情報」（Cobb〈1976〉、浦光博〈1992〉のレポートより引用）とあります。簡単に言えば、私たちが生活する上で得ているさまざまな援助のことで、普段の人間関係の中でのサポータティブ(協力的)なやりとりのことだと言えます。



ここに病気をもつ人は、さまざまな理由でよい対人関係を築けなくなっています。また、周囲の人に不信感を持ってしまっていることもあります。そのような状況を打開し、信頼できる対人関係を築いていくことこそ、社会復帰への道と言えるでしょう。

対人関係によるソーシャル・サポートには、大きく分けて道具的サポートと情緒的サポートがあります。

◎道具的サポート

何かあったときに助けてくれるような信頼できる対人関係のことです。何らかのストレスに苦しんでいる人の人間関係に介入して、その関係を調整したり、具体的なアドバイスを行ったりします。医師や看護師のサポートもそれに当たります。

◎情緒的サポート

お互いにこころの交流が得られる対人関係のことです。勇気づけたり、励ましたり、周囲にいる友人や家族などがストレスに苦しむ人のそばにいて友情や愛情を示

すことが大切です。そうすることで、当人の傷ついた自尊心や情緒に働きかけて、その傷を癒し、自ら積極的に問題解決に当たれるような状態に戻していくことができるかもしれません。

☆道具的サポート

◎受診をためらわないで

ストレスで悩み、自分一人でいろいろ工夫してみたけれど、どうもうまいかないというときは、一人で考え込まないで、専門家に相談してみましょう。今やストレスで悩まない人はいません。また、ストレスに関連した病気にかかっていることも珍しいことではありません。

普通の内科に通ってもよくなるらない、原因がわからないというときは、心にその原因があるかもしれないと考え、心療内科などの扉をたたいてみましょう。病気の程度や症状と合わせて、心理的な影響、環境要因などをチェックし、その人にふさわしい治療法を考えてくれるでしょう。相談して、援助してもらうために、専門家を味方につけようというくらいの気持ちで訪ねてみましょう。

☆情緒的サポート

◎家庭でのソーシャル・サポート

家庭でのコミュニケーションが薄れつつあります。例えば、塾や習い事で子どもが忙しかったり、残業やつき合いでなかなか父親が帰宅しなかったり、家庭でのすれ違い生活で、会話が少なくなり、それぞれのストレスが高まっています。

そこで、情緒的ソーシャル・サポートで最も重要となってくるのが家庭でのコミュニケーションの回復です。家族とのこころのこもった関係を取り戻し、お互いに日々語り合い、話し合うことが大切です。



- 経済的要因
- 家族の健康
- 親子関係、夫婦関係などの家庭内での人間関係
- 家族の介護
- 子どもの教育、進路

◎職場でのソーシャル・サポート

職場での人間関係や仕事上の問題からストレスを感じ、心の病気になることも多々あります。このような職場ストレスに適切に対処するために、職場でのストレス・マネジメントやソーシャル・サポートが求められています。

ストレスの原因となるような日常の生活や仕事上の悩みについて、気軽に相談できる人材を確保し、問題の早期発見と適切な対応ができる体制を整備する必要があります。そのためにも、管理・監督者の教育、そのための研修の実施などが望まれます。

○主なストレス要因

- ・長時間勤務
- ・過重な心理的負荷のかかる勤務
- ・上司、同僚、部下などとの人間関係の悪化
- ・昇任による責任の増大
- ・転勤・配置転換による勤務環境の変化



○職場でのところが不健康状態のサイン

- ・表情が暗くなり、元気がなくなる
- ・欠勤、遅刻、早退が増える
- ・仕事の能率が低下する
- ・積極性や決断力が低下する
- ・ミスが増える
- ・飲酒による問題を起こすようになる
- ・口数が減り、周囲の人と折り合いが悪くなる
- ・身だしなみがだらしなくなる



*不健康状態の人を見つけたら

- ・管理監督者と連携し、必要に応じて家族と協力しながら、専門家への早期受診をすすめる。
- ・家族などから連絡があったときは、職場における状況を把握し、専門家への受診等、必要な支援を行う。

☆ソーシャル・サポートはストレスを減らす

ちょっとつまずきそうになったときに、声をかけてくれたり、励ましてくれたり、何か有益な情報をくれたり、あるいは解決に必要なものをくれるような人が周りにいると、ずいぶん心強く感じられることがあります。

つまり、ソーシャル・サポートの力で、その人のストレスに対する反応を軽減することができ、ストレスに耐える力も増えると考えられます。逆に、このような支援がなく孤立した状況では、同じ程度のストレスに直面してもストレスに対する反応は強くなり、病気になる可能性が増えることが知られています。

幅広い人間関係を築いておくと、その分、たくさんのサポートを得ることができます。また、幅広い人間関係があれば、「困ったときには頼れる人がいる」という期待感も増します。この期待感が、ストレス反応を弱める働きをしてくれるのです。一般に、誰かから受けられるサポートへの期待感が大きい人ほど健康であるといわれています。

自分にはいざというときに助けになるような人間関係がないと思う人もいるかもしれませんが。焦ってサポータティブな人間関係を作ろうと思う必要はありません。そんなこともあるんだなということを頭の片隅に置いて、人と付き合ってみるというのはどうでしょうか。



頭痛について

薬局

～見極めよう あなたの頭痛は どのタイプ?～

頭痛には2種類あります。脳や体の病気によって起こるのが「症候性頭痛」ですが、多くの場合は激しい痛みを伴っても命にかかわることがない「機能性頭痛」です。機能性頭痛には、緊張型頭痛、偏頭痛、群発頭痛の3タイプがあり、最も多く見られるのは緊張型頭痛で、心身のストレスが主な原因です。偏頭痛はストレスからの解放が誘因といわれ、月に何回か繰り返し痛みます。片側だけでなく両側痛むこともあり、母系から遺伝することが多いため、女性に多く見られます。また、群発頭痛は血管の拡張が原因と考えられます。



緊張型頭痛は、締めつけられる感じが続くのが特徴で、痛みの程度は寝込むほどではありません。偏頭痛は脈打つように「ズキンズキン」という痛みをこめかみや目のあたりに感じ、ひどくなると日常生活に支障をきたします。群発頭痛は片側や目やその周囲が突然激しく痛み、1～2ヶ月の間、まるで群発地震のように毎日続きます。症候性頭痛の場合は、今までに経験したことのない症状を伴うことが多く、突然かなづちで殴られたような激しい痛みを感じたり、ものが二重に見えるというケースがあります。



緊張型頭痛は筋肉の血流の悪化から始まるので、マッサージや入浴で筋肉の血流を促しましょう。ストレス解消も大切です。偏頭痛は、暗い静かな部屋で横になるだけでも楽になります。緊張型頭痛とは逆に冷やすと痛みが和らぎ、初期段階なら市販の鎮痛薬も効果があります。ひどいようなら、神経内科の専門医による診察を受けてください。群発頭痛の場合も同様ですが、深呼吸を繰り返すことも効果的です。また、いつもの頭痛とは違うと思ったら不用意に動かず、救急車を呼びましょう。

同じ頭痛でも治療法は頭痛の性格によってすべて異なります。偏頭痛と緊張型頭痛を例にとると、痛む場所が主に側頭部なら偏頭痛、後頭部なら緊張型頭痛です。また、偏頭痛の場合、動くと痛みが増し、お風呂に入るとさらにひどくなりますが、緊張型頭痛の場合、動いても痛みは変わらず、お風呂に入れば楽になります。いずれにしても痛みがひどいようなら、専門医に相談しましょう。



地域包括ケアシステム

地域連携センター

団塊の世代が75歳以上を迎える2025年には高齢者人口がピーク(約3500万人)を迎えると言われており、今後は医療・介護等のサービス提供力の実態を踏まえて、NPOやボランティアなどのサービス提供体制を進め、地域住民を含む様々な分野の人が連携し地域包括ケアシステムを整備していく必要があります。そこで今回は地域包括ケアシステムについてご紹介します。

・地域包括ケアシステムとは

地域住民に対し、保健サービス(健康づくり)、医療サービス及び在宅ケア、リハビリテーション等の介護を含め福祉サービスを関係者が連携して地域住民のニーズに応じて一体的・体系的に提供する仕組みのことです。

・地域包括ケアシステムの定義

ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために医療や介護のみならず、福祉サービスも含めた様々な生活支援サービスが日常の場(日常生活圏域)で適切に提供できるような地域での体制。具体的には中学校区を基本とします。

・地域包括ケアを構築するためには？

地域の中で安全で質の高いケアを包括的に提供するためには「自助」、「互助」、「共助」、「公助」の視点を持って取り組んでいくことが重要になってきます。

自助⇒

自ら働いて、自らの年金収入により、自らの生活を支え、自らの健康は自らで維持すること

互助⇒

近隣の助け合いやボランティア等

共助⇒

社会保障のような制度化された相互扶助

公助⇒

自助・互助・共助では対応出来ない困窮等の状況に対して、所得や生活水準・家庭状況等の受給要件を定めた上で必要な生活保障を行なう社会福祉等

※地域で安全で質の高いケアを包括的に提供する体制を構築するためには、これらのそれぞれに関するすべての関係者が能力を出し合ってケアの計画、提供に貢献することが必要になってきます。
(「地域包括ケア研究会」報告書からの抜粋)

※当法人・病院でも地域包括ケアシステムの準備を行っており、地域の中で生活できるように患者様、御家族への支援を行っていきます。

詳細につきましては、地域医療連携センター(医療ソーシャルワーカー)へお問い合わせください。

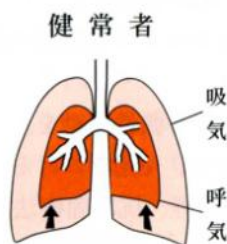
COPDとは

リハセンター

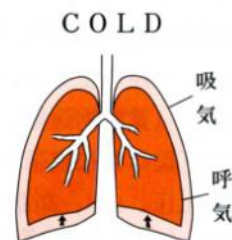
COPDとは

慢性閉塞性肺疾患(COPD)とは、慢性気管支炎、気管支喘息、肺気腫などの疾患のことを言い、気道の閉塞(感染・分泌)により慢性的な咳や痰、息切れをひきおこす。

分 類	病 態
1. 慢性気管支炎 2. 気管支拡張症 互いに併発し、移行する 3. 喘息：COLD に入れないこともある 4. 肺気腫：COLD の終末像および老人性肺気腫 5. びまん性汎細気管支炎	○気管支の攣縮・感染・分泌増加による気道の閉塞が1秒率低下、残気量増加、肺気腫の原因 ○感染のコントロール、喀痰排出、十分な呼気訓練が重要



気管支は呼気、呼気とも十分に開いており、速やかで十分な吸、呼気ができる。



気管支の炎症、攣縮のため、特に呼気が障害され、汚い空気が肺内に残存し (Air Trapping)、肺胞内圧上昇のため肺気腫が進行する。

一般高齢者の運動処方のでてかた

規則的な運動で、筋力低下を防ぎ健康を増進する。高齢者では急激な運動は事故につながりやすいので、運動は段階的に増やす。強化するよりも、低下の防止・維持機能を目的とする。

メディカルチェック

医師の診察、血液検査、個人データなど

運動処方の内容

全身運動；持久力増強、肥満防止…水泳や水中歩行など

膝に痛みのある人に効果的

運動目標量；予想最大心拍数(220-年齢)の60%位からはじめ、80%くらいにとどめる

ストレッチング；関節可動域の拡大と筋肉の伸長を行う

肩こり対策～食事編～

栄養室

私たちはなぜ『肩がこる』と感じるのでしょうか。

私たちの体は本来、疲労物質などの老廃物をスムーズに排出し、筋肉の健康を保っています。しかし慢性的な筋肉疲労や血行不良が続くと、筋肉に十分な酸素や栄養素が行きわたりにくくなります。すると筋肉に老廃物がたまり、筋肉がかたくなることで周辺の神経が刺激され、こりや痛みが起こります。

肩こりは、普段の生活が原因で起こることがほとんどなので、まずは普段の生活を見直すことが一番です。

その次に血液や筋肉など、私たちの体を作っているものは、毎日の食事で体内に取り入れられる栄養素です。肩こりを根本からやわらげるためにも、食生活も見直しましょう。

食生活の基本は、1日3食のバランスのとれた食事です。

その中でも、特に意識して摂りたい4つの栄養素をご紹介します。



ビタミンE：血液の流れをスムーズにし、筋肉の緊張をやわらげます。（かぼちゃ、アーモンド等に含まれます。）

ビタミンC：ストレスによって消費されやすいため、疲労感のある人は積極的に摂取しましょう。（緑黄色野菜、レモン、果物などに含まれます）

ビタミンB1：糖質をスムーズにエネルギーに変え、疲労回復に役立ちます。（豚肉、大豆、うなぎなどに含まれます）

たまねぎやにんにくなどの元であるアリシンは、ビタミンB1のを吸収助けるので一緒に食べるのがおすすめです。

クエン酸：こりやだるさの原因となる疲労物質「乳酸」の分解を促します。（梅干、柑橘類などに含まれます）



日常生活のちょっとした工夫で
身（肩）も心もリラックスし快適な
毎日を過ごしましょう！！

●診療情報の提供及び開示につきまして

当院では、患者さま・ご家族より診療情報の提供（診療内容の説明）及び開示（カルテ開示）についてお申し出があった際は速やかに対応させていただくシステムになっておりますが、提供・開示の際に必要な条件書類等がございます。

～診療情報の提供及び開示の条件・必要書類・申請方法～
担当の窓口にて対応させていただきます。
御遠慮なく病棟スタッフへお申し出ください。

●セカンドオピニオンにつきまして

患者さま・ご家族が、当院で十分納得していただいて、患者さまが主体的に治療を受けていただく為に、第三者である他医療機関の医師の診療を受けられることにつきましては、それに応じさせていただいております。

※セカンドオピニオンとは...

セカンドオピニオン＝第2の意見。主治医以外の医師の意見。

現在の主治医以外の診断や治療方針を聞くことで十分に納得して患者さまご自身が主体的に治療を受けていただく為に実施されています。

『セカンドオピニオン外来』が設置されている医療機関では保険診療が認められ、5,000円で算定されますが、内容によっては自費で10,500円～20,000円かかる場合もあります。

個人情報保護方針

当院は、個人の権利・利益を保護するために、個人情報を適切に管理することを社会的責務と考えます。

個人情報保護に関する方針を以下のとおり定め、職員及び関係者に周知徹底を図り、これまで以上に個人情報保護に努めます。

1. 個人情報の収集・利用・提供

個人情報を保護・管理する体制を確立し、適切な個人情報の収集・利用および提供に関する内部規則を定め、これを遵守します。

2. 個人情報の安全対策

個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざんおよび漏洩などに関する万全の予防措置を講じます。

万一の問題発生時には速やかな是正対策を実施します。

3. 個人情報の確認・訂正・利用停止

当該本人（患者さま）等からの内容の確認・訂正あるいは利用停止を求められた場合には、別に定める内部規則により、調査の上、適切に対応します。

4. 個人情報に関する法令・規範の遵守

個人情報に関する法令およびその他の規範を遵守します。

5. 教育および継続的改善

個人情報保護体制を適切に維持するため、職員の教育・研修を徹底し、内部規則を継続的に見直し、改善します。

6. 診療情報の提供・開示

診療情報の提供・開示に関しては、別に定めます。

7. 問い合わせ窓口

個人情報に関する問い合わせは、各部署責任者または以下の窓口をご利用ください。

個人情報保護相談窓口：地域医療連携センター

冰山の一角（意見箱より）



患者様・ご家族様からのご意見・ご要望に関する回答

▼ 洋服ケースの開き戸が、音が高くてびっくりします。テープで貼って音を抑えて下さい。車の音も高いようです。

→申し訳ございません。ネジの緩み、蝶番の摩耗、金属疲労が考えられます。防音対策については、スポンジの貼り付けをする等、現在検討中です。職員の取り扱い方も配慮して参りますので、ご理解下さい。また、台車や下膳車の音につきましても、随時修理や購入の検討を行い、改善に努めて参りますので、よろしくお願い致します。

ご意見箱は、外来と各階食堂談話室並びに腎センターへ設置してあります。患者様・ご家族様より頂きましたご意見に対して、当院では毎月開催しております「サービス向上委員会」にて検討し、改善策を導き出して対応させて頂いております。皆様からのご意見を今後ともよろしくお願い申し上げます。

☆編集後記☆

本年度も、数多くの新入職員が当院に入職して参りました。職員一同、一生懸命努めて参りますのでよろしくお願い申し上げます。

（編集委員 山元）

※本掲載分の個人名・団体名につきましては個人情報保護法に基づき、本人またはご家族の同意を得て掲載されております。



医療法人 玉昌会 加治木温泉病院

〒899-5241

始良市加治木町木田4714

TEL 0995-62-0001（代）

FAX 0995-62-3778

URL <http://www.gyokushoukai.com/>

診療科目

- | | | |
|-------------|--------|-------|
| ●内科（人工透析含む） | ●消化器科 | ●泌尿器科 |
| ●皮膚科 | ●耳鼻咽喉科 | ●放射線科 |
| ●リハビリテーション科 | ●歯科 | |

